

「クリエイターの話 ～ 私のイメージの源泉」

スペースデザイン部会員 今村 敬子

『作業する空間の変遷と作品の移り変わり』

私は京都精華短期大学に入学して染色に出会ってから、学生時代とアシスタントの6年間、学校の作業室を使って制作をしていました。

京都の北山にできたばかりの学校は、ろくに校舎の建物も揃ってなくて、染色クラスはスレート屋根で床はコンクリートのプレハブでした。夏は屋根が焼けてオープンの中のような暑さでしたが、休み期間は誰もいない教室を好き放題使って、贅沢な空間で制作していました。

その後も制作を続けたくて、御室仁和寺の近くの祖母宅の離れに居候しました。ボロボロの数寄屋作りで隙間風が入るし、雨漏りはするしでしたが、とても風雅なところで庭も広く、祖母が亡くなるまで10年近く暮らしました。

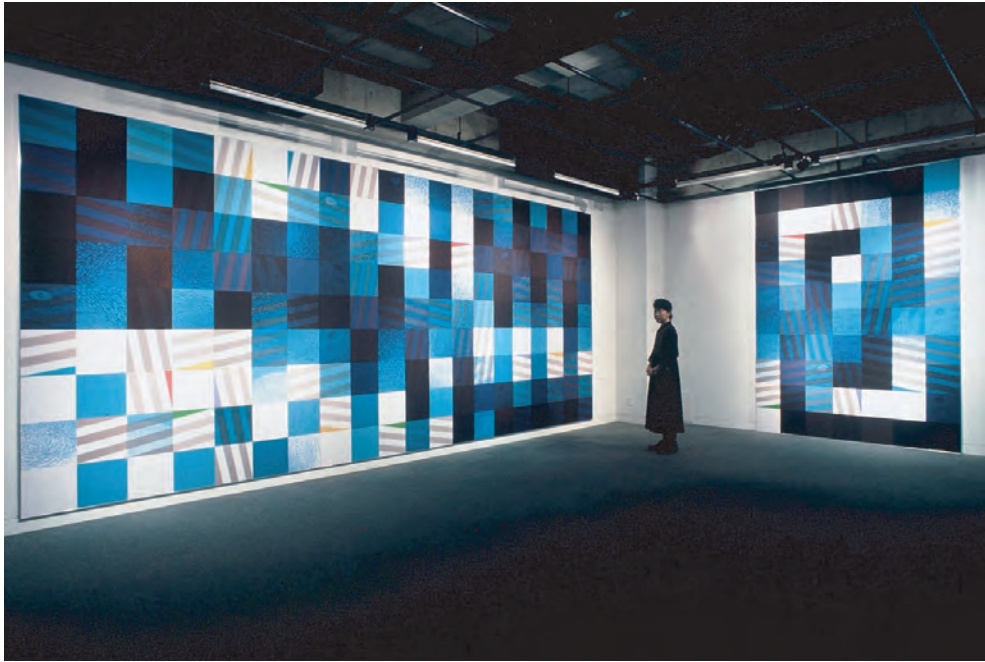
学生時代からずっと型染めという技法で作品を染めるのですが、当時は美濃紙を柿渋で張り合わせた『渋紙』を使っていました。渋紙は糊を置く前に水に漬けて、十分に水を吸わせておかないと、フラットな状態を保てなくなってしまうのです。学校では大きな水槽があって、大きな型紙でも漬けられましたが、個人の家ではそうはいかず、お風呂に水をはって漬けてみたり、左官屋さんが使う『フネ』というんですか、鉄板を曲げて作った四角いバットを買ってみたり、工夫しましたが型紙は最大90cm角くらいが限度でした。

それならと、大きなものが染められない制約を逆手に取って、パネルを組み合わせる作品を作ると、意外な表現が出てきて面白くなりました。



1983年 47回展 新作家賞 60cm x 60cm パネル9枚組み

その後実家に戻りましたが、その頃には耐水性のある合成型紙が出ていたので、水に漬ける必要がなくなり、風呂場でベニヤ板の上に置いて水をかけて洗えました。それでも一度に染められる大きさには限りがあり、パターンを組み合わせる制作は続けました。染め枠を天井から吊ったり、ガレージで干したり、狭い住宅で色々工夫し、かなり大きな作品も作りました。



1996年 マロニエ個展会場 30cm x 30cm パネル組み

2000年に今住んでいるマンションに引っ越しました。部屋は60平米余りで、ダイニング、キッチン、和室は乾燥場、洋室を倉庫に、玄関の板の間、お風呂場と寝室以外は全部作業場です。地下には広くはないけれど天井の高いトランクルームがあり、染め枠などは片付けられます。

何より初めての独り暮らし、好きなように夜中でも作業できるし、とても快適で作品もカラフルで明るく楽しい感じになっていきました。



2001年 アートライフみつはし個展会場

この頃、新制作協会の75周年記念展覧会で、三部合同展示をすることになり、スペースデザインらしい作品をとということで、薄いローン生地のパナーを20枚吊るす作品を作りました。このための大きな染め枠と、それが載せられる折り畳み式の乾燥棚を作りました。



2011年 75回記念3部合同展示



染め枠と乾燥棚

この枠と棚で最大で 93cm x 190cm の布が染められるようになり、上下に別に染めた布を縫い合わせてタペストリーを作りました。



2018年 新制作展 208cm x 93cm 3点組

タペストリーを作り始めたら、張り手（布の両サイドを木に挟み、左右に引っ張る古来の布の張り方）を使ったらもっと長い布を生地幅いっぱい染められるのになあ、でもこの部屋では無理と諦めていました。

そんな時、友人が使わなくなった仕事場を使っても良いよと言ってくれたのです。東山区の大きな京町家の一角で、間口は2軒ほどですが、奥行きのある作業場、床は水を流せるたたき、染め工房にうってつけです。さっそく突っ張り棒を立て、念願の張り手と伸子で、長い生地を張って作品を染めはじめました。



染め場 5mほどの生地が染められる



2022年 新制作展 432cm x 93cm 2点組

私は1/20程度のエスキースだけを頼りにパーツを染め、展示して初めて全貌が見られるという作品の作り方をしてきましたが、全体のサイズを実感しながら染められるので楽しめます。

しかし、長い布の引染めや水洗いはかなり体力がいりますので、作業の合間には近くの鴨川堤をウォーキングし、体力維持に努めています。

今は次の個展（6月20日～25日 同時代ギャラリー 京都）に向けて準備を始めています。楽しい作品が作りたいです。

今村 敬子 プロフィール



1952 京都市に生まれる

主な展覧会

- 1974/5 個展 ギャラリー射手座 京都市
1975/5 個展 ギャラリー射手座 京都市
1980/5 個展 ギャラリー射手座 京都市
1980/9 第44回新制作展入選（以後毎回入選）
東京都美術館
1981/5 個展 ギャラリー射手座 京都市
1981/7 “Knoting - Weaving - Dyeing”
HANDWERKSFORM HANNOVER ハノーバー
1982/5 “Alte Technik-Neue Form” KOPPEL66
ハンブルグ
1983/9 第47回新制作展 新作家賞 東京都美術館
1984/9 第48回新制作展 新作家賞 東京都美術館
1986/5 個展 ギャラリーマロニエ 京都市
1987/9 第51回新制作展 会員賞 東京都美術館
（以後毎年出品、2000年～京都市美術館巡回）
1991/5 個展 ギャラリーマロニエ 京都市
1992/6 '92美術選抜展 京都市美術館
1992/7 染織 - 京都からの発信 京都府文化博物館
1993/5 個展 ギャラリーマロニエ 京都市
1994/9 現代の美術展 国立国際美術館 大阪市
1994/11 染アート展 京都市美術館 京都市
1996/5 個展 ギャラリーマロニエ 京都市
2001/5 今村敬子テキスタイル展
アートライフみつはし 京都市
2002/2 染 - 2002展 ギャラリー三条 京都市
2004/6 今村敬子テキスタイル展
アートライフみつはし 京都市
2007/5 今村敬子型染展
アートライフみつはし 京都市
2008/10 音を視る 色を聴く
ー 音楽と美術のコラボレーション展
アートライフみつはし 京都市
2010/5 今村敬子型染展
アートライフみつはし 京都市
2011/9 第75回新制作展『75回記念三部合同展示』
国立新美術館、京都市美術館
2012/5 今村敬子型染展
アートライフみつはし 京都市
2013/3 Harmony Nepal Japan パタン市 ネパール
2013/5 Best Selection 2013 東京都美術館
2014/5 今村敬子型染展
アートライフみつはし 京都市
2015/6 今村敬子展 - 風・鳥・星・草 -
ギャラリーH20 京都市
2017/5 今村敬子型染展
アートライフみつはし 京都市
2019/6 今村敬子型染テキスタイル展
ギャラリーH20 京都市
2021/6 今村敬子型染テキスタイル展
同時代ギャラリー 京都市

新制作協会会員

京都工芸美術作家協会会員